

横浜市インフルエンザ流行情報 3号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

インフルエンザの報告が増加しています。

【概況】

2016 年第 48 週(11 月 28～12 月 4 日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で **3.02** と、前週よりさらに増加しています。報告された患者の半数以上は 15 歳未満です。

今シーズンの第 48 週の迅速診断キットの結果は **A 型 95.9%**、**B 型 4.1%** となっています。全国のウイルス検出状況^{※2}では、ほとんどが **AH3 型(A 香港型)** で、横浜市内も同様の傾向です。また、学級閉鎖の発生は第 48 週までに今シーズン合計で 18 件報告されています(主に小中学校)。

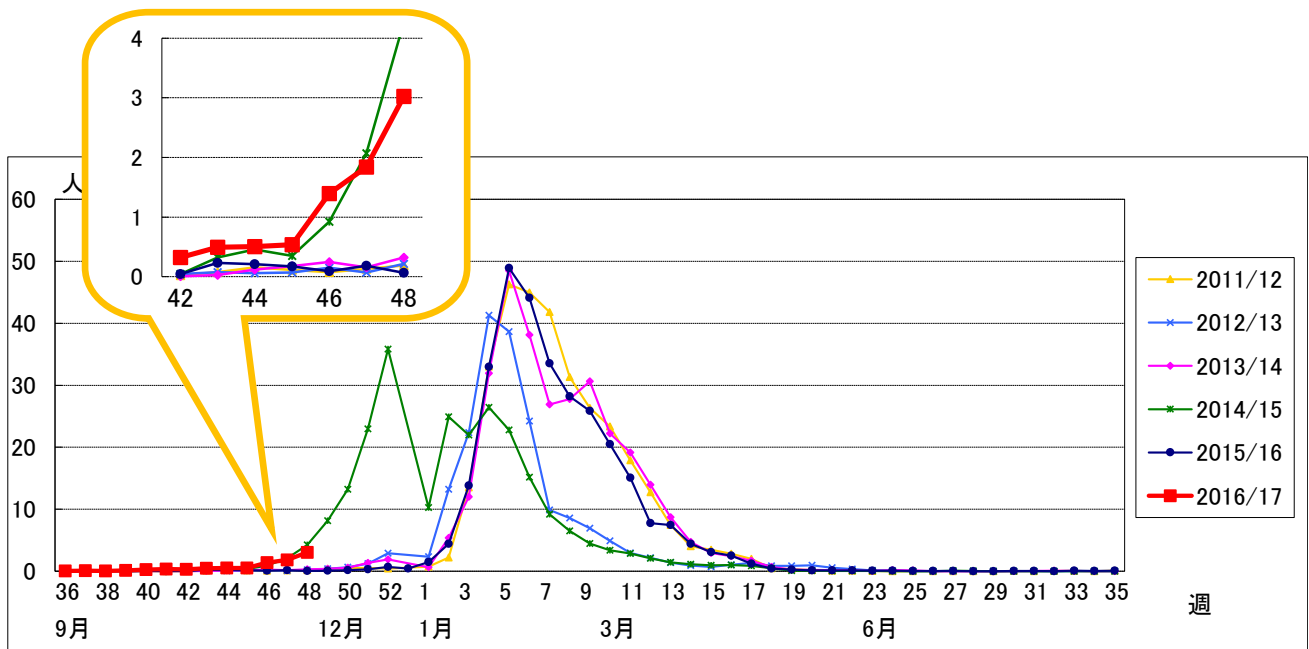
今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策^{※3}が重要です。

※1 定点・・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内 153 か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

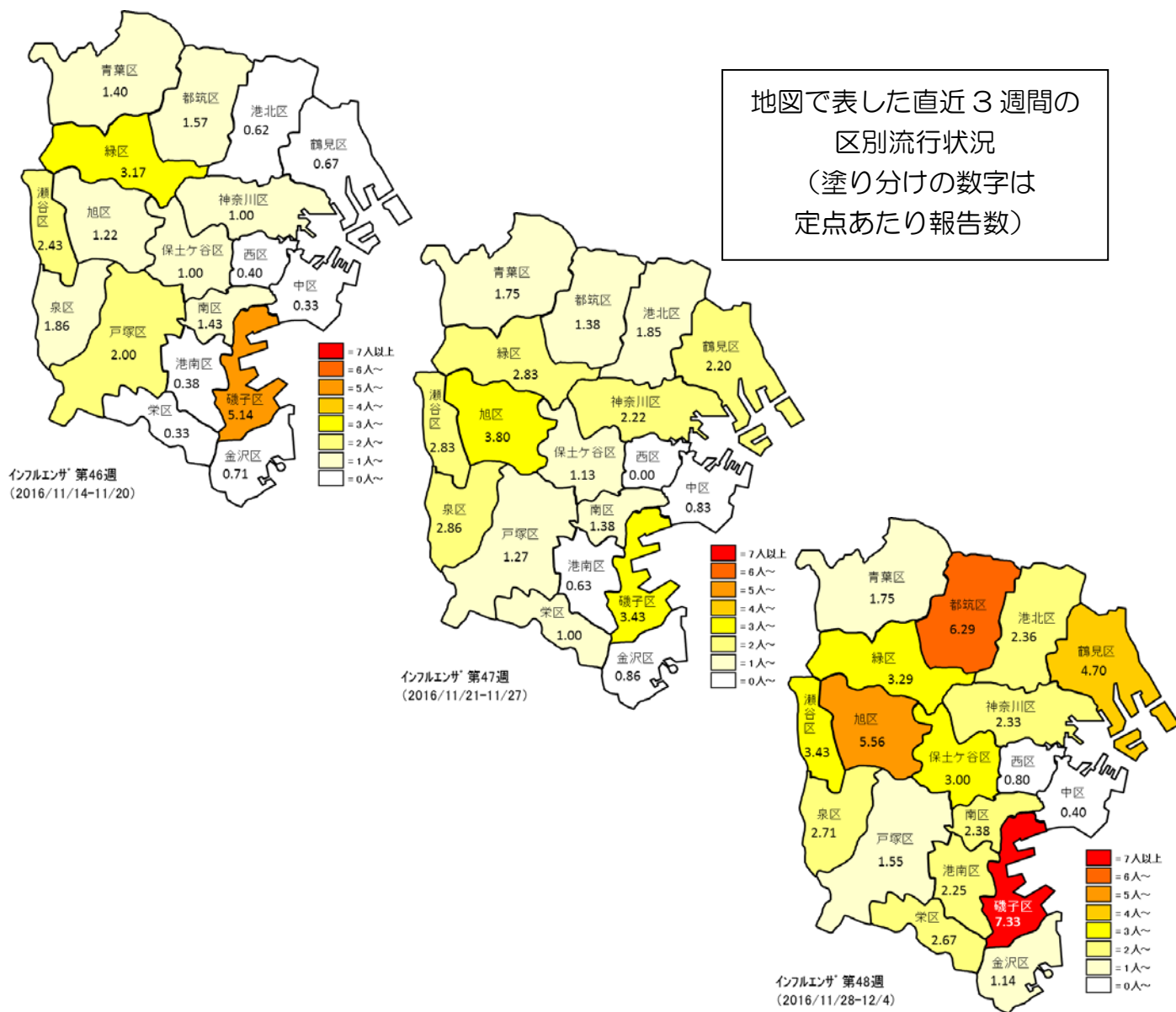
※2 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)

※3 [インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、2016 年第 48 週で 3.02 と、前週の 1.84 よりさらに増加しました。

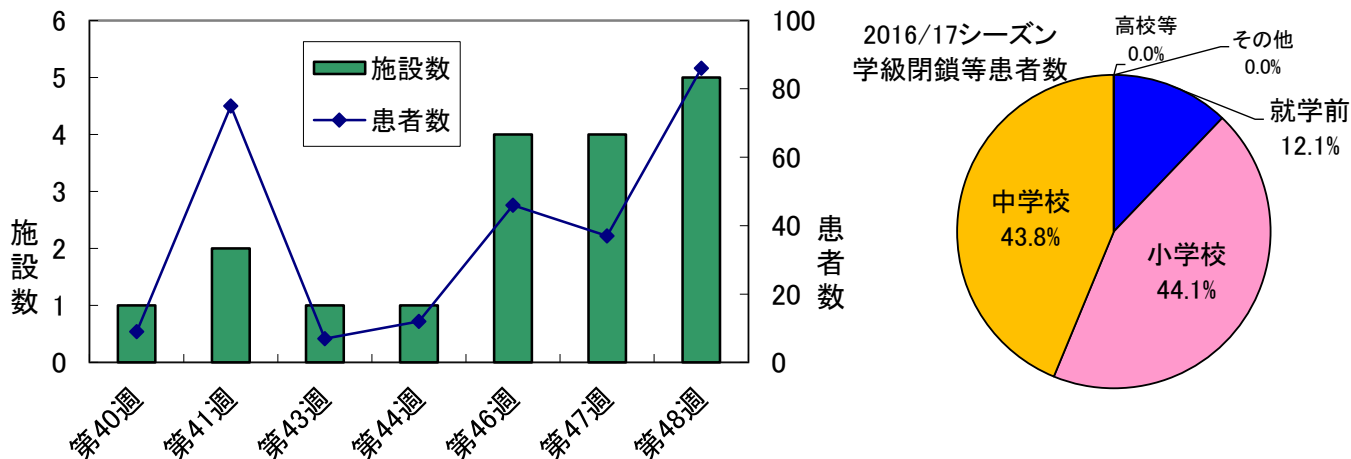


2 地図で表した直近3週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

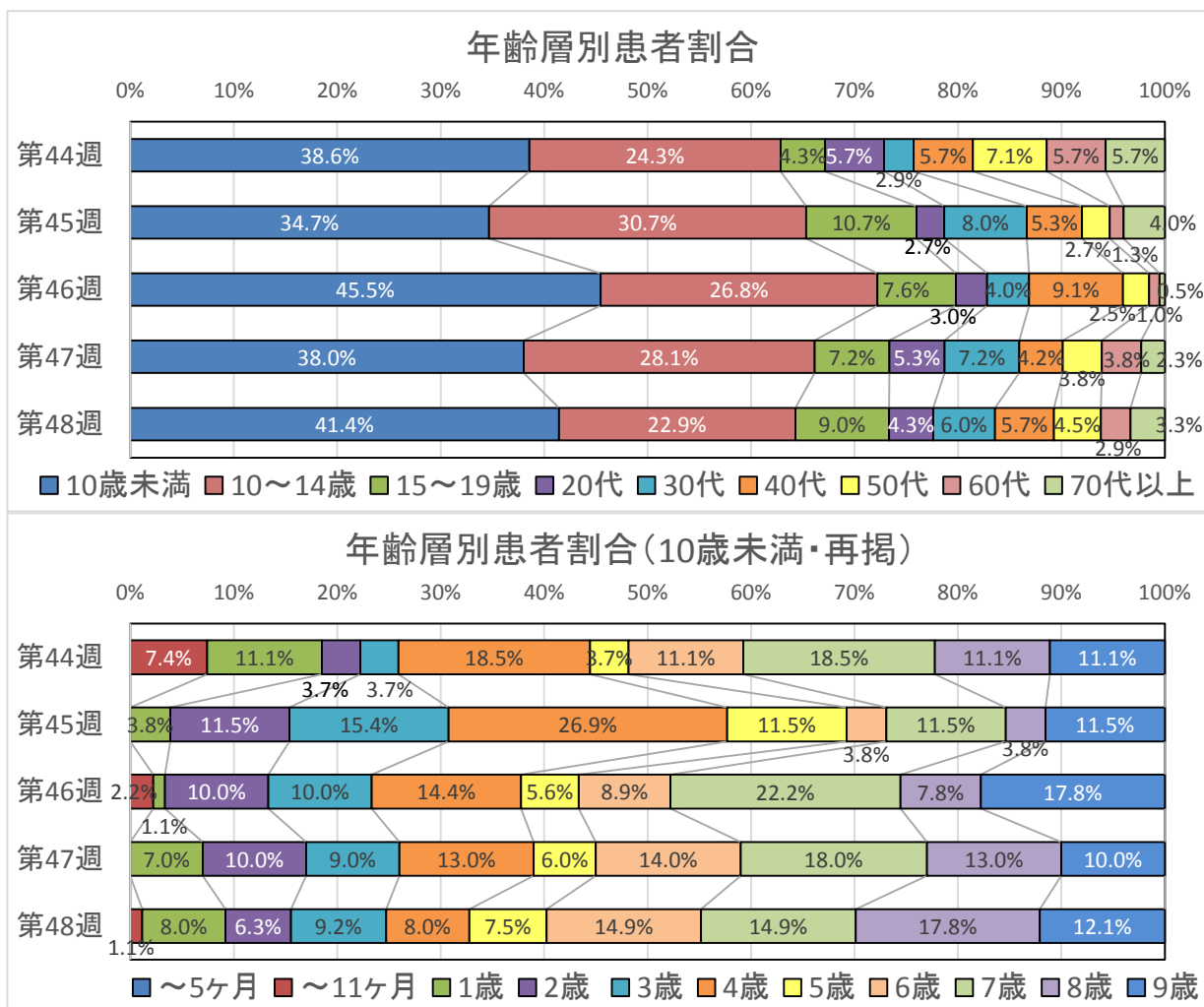


3 市内学級閉鎖等状況:今シーズンは第48週までに18件が報告され、報告された患者数(医療機関で診断された人数とインフルエンザのような症状のある人数の合計)は延べ272人となっています。報告された患者数の施設別の割合は、小学校44.1%、中学校43.8%、幼稚園・保育園が12.1%となっています。第48週の5件は、幼稚園1件、小学校3件、中学校1件でした。

学級閉鎖等状況

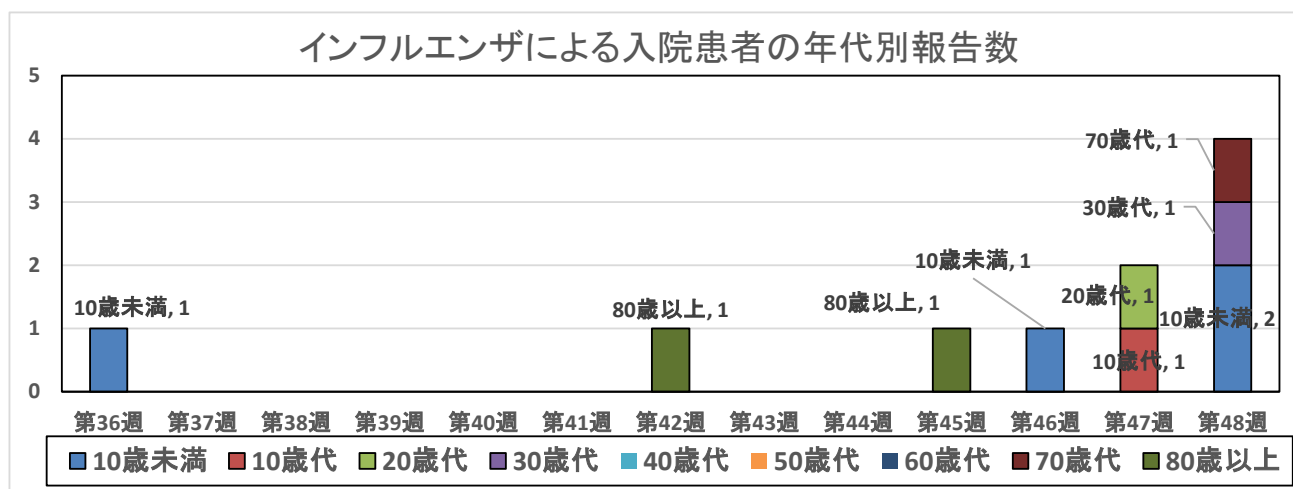


4 年齢層別集計:第 48 週の患者年齢構成は、10 歳未満が全体の 41.4%、10 歳以上 15 歳未満が 22.9%を占めており、小学校や中学校での感染予防が重要です。



5 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関^{※4}におけるインフルエンザ入院患者は、第 47 週の 2 人から、第 48 週は 4 人となりました。

※4 基幹定点:基幹定点:患者を 300 人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。



※参考リンク

近隣自治体の流行状況

○神奈川県 ○川崎市 ○東京都

全国の流行状況

○国立感染症研究所

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237